

今月の谷口雅春先生のお言葉

# 古事記神話には日本民族の世界観があらわれている

神話とは何であるか

『古事記』という本があります。天武天皇の詔によって、稗田阿礼が当時日本に古くから伝わっていました。神話、及び歴史的事実のうち疑わしきもの、信ずべからざるものは省き、これこそ真理であり、又歴史的事実であると云うものだけを収録した記録だと云われております。この『古事記』の神代の巻というのには、神話が書かれていますのであります。

神話というのは一体何かというと、ただ単に神様物語

というのではないのであります。それは単なる御伽噺

はないのであります。宇宙に充ち遍満している真理を

当時古代の国民がその直感的認識によってとらえてそれ

を物語に表現したものが、『古事記』の神代の巻の神話

であるわけです。神話というのは古代から続いている国

ならどここの国にもあるのであります。必ずしも日本の

特産というわけではないのであります。大体古代の民族

というものは、現代の科学的知識の発達した人間とは違

って科学的分析的な力がないから、それだけ直観認識

の力が強かったのです。つまり分析の知恵というものは

細かく物を分解して、人間なら人間を細かく分解して、

人間とは如何なるものかということを知るのには、先ず人間を細かく切つて、そして皮膚はどういう構造になっている、筋肉はどういう構造になっている、あるいは内臓はどうなっていると、一々細かく調べていって、人間とはこういうものだ、こう考えて行くのが分析的の知恵であります、ところがこれではどうしても人間というものは如何なるものかということとは分からないのであります。分析によりますと、人間の部分品はどういう構造になっているかということは分かるけれども、「人間」なるものは如何なるものかということは分析ではどうしても分からないのであります。(中略)

そんな分析的の知恵でなしに、人間全体を其の儘「いのち」として把えなければならぬのです。現代的言葉でいうと、「そのものずばり」「人間ずばり」と、人間の全体を把握しなければならぬのです。しかし「そのものずばり」はどうしても科学的分析によつてはとらえることが出来ないのであります、直観の智によつてとらえなければならぬのです。

(新装新版『真理』第3巻234～236頁)

## 真理というものは肉眼には見えない

人間全体——いのち、そのものは五官の感覚ではわかりません。直観の智慧によらねばならぬのです。感覚で寄せあつめた理解はこれを知識と云うのであります、直観によつてそのものズバリと全体を把握した理解を智慧と云うのであります。すなわち仏教でいう「般若の智慧」であります。たんに、分析的知識の発達しているのはどうかするとこの般若の智慧、直観の智慧というものが乏しいのであります、古代民族は分析知に乏しかっただけに直観の智慧というものに優れておりまして、宇宙に満ち満ちているところの真理そのもの、宇宙は如何にして成立つたものであるか。あるいは、人間は如何にして生れたか。人間の目的は何か。人間とは如何なるものか。というような問題をそのものずばりと、理窟なしに、直観的にとらえたのであります。そのとらえたところの真理というものは、肉眼には見えない。真理は宇宙に満ち充ちているけれども、肉眼には見えないから、

それを表現するのにどうしても象徴を使わなければならない。つまりシンボル、象、徴に現わしたものを使わなければならないのです。

（新装新版『真理』第3巻237～238頁）

### 宇宙の真理をかたちに表したのが神話である

真理というものはどういうものか、まあ例えば数学上の真理であります。例えば「二二が四」と云うのは数学というものを見せてくれといっても、これは見えない。しかし何処にでも「二を二倍すれば四と成る」という真理は充ち満ちているのです。だけれども、「二二が四」を見せてくれといっても見えない。そこでそれを見せるためには、数字を書いて、 $2 \times 2 = 4$ と云う風に符号によつて象徴するか、あるいは林檎なら林檎を二つ持つて来て、更に再び林檎を二つ持つて来ると、それで四つになると云う風にして、これが「二二が四」だと、こうして具体的なあるたとえを持って来て、そしてその真理

を示さなければならないということになっているのであります。（中略）これは真理は形に見えないから、それを形に見えるものを示して、それを象徴として真理を表現しようとしたものであります。

古代の民族がとらえたところの真理というものを表現するのも、これと同じ道理でありまして、何らかの象徴を持って来なければ、その真理を象徴に表わすことが出来ないものでありますから、古代の民族は往々真理を現わすのに神様物語の形をもつてしました。これがいわゆる「神話」というものであります。神話は世界各国にありますけれども、日本にあらわれた神話はやっぱり日本民族の精神を通して宇宙の真理をとらえたのでありますから、同じ真理でもとらえ方において、又その表現の仕方において、作者たる日本民族の個性なるものが現われているので、その神話を研究すると、日本民族の個性や世界観がよくわかるのであります。

（新装新版『真理』第3巻238～239頁）